

地域再生計画（道整備交付金）事後評価調書

都道府県名	群馬県	事業実施主体	群馬県、桐生市	地域再生計画名	群馬県北東毛地域における地域資源を活用した再生計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	群馬県環境森林部長井田由夫、桐生市産業経済部長金井利雄		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標 1	指標 2	基準年度	過去5年間の平均	年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	道路整備による観光客の増加 (過去5年間の平均観光客数から5%増加)	9,886千人	過去5年間の平均	—	—	—	10,380千人	過去5年間の平均から5%増	10,269千人	○	市道や林道の整備により、山間部等の観光施設に観光客が増加した。現状では目標を若干下回っているが、平成24年以降は観光客数が上昇している。
	指標 2	森林の整備面積の増加 (過去5年間の平均森林整備面積から10%増加)	789ha	過去5年間の平均	—	—	—	867ha	過去5年間の平均から10%増	636ha	△	計画に基づき道路整備を進めてきたが、目標値を達成することはできなかった。理由としては、平成23年に国の森林林業基本計画の変更により、森林施業の集約化や路網整備の推進による木材自給率の上昇を目指すとともに、東日本大震災への対応として、住宅等の再建に必要な木材の安定供給や木質バイオマス資源の活用による環境負荷を少なくする政策が取られ、県においても平成23年度に群馬県森林林業基本計画を策定し、10年後の素材生産量増を目標に様々な施策が展開されている。このことから森林整備の作業方法が大きく転換され（切り捨て間伐から搬出間伐に移行）、ある一定の森林整備面積に費やす労働時間等が増加し、1日に作業できる森林整備面積が減少したことで、目標を下回ったと考えられる。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	素材生産量の増加	47,451m3	過去5年間の平均	—	—	—	47,451m3	過去5年間の平均	58,269m3	◎	林内の路網整備が改善されたことにより、搬出間伐が増加し、素材生産量の増に繋がった。
	指標 2											
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
特別措置を適用して行う事業			計画	中間年度(Hー)	最終実績							
	市道整備事業		0.5km	—	0.5km	市道の整備路線については、計画どおり整備が完了することができ、一定の評価を得ることができた。						
	林道整備事業		6.9km	—	6.2km	林道整備については、各路線とも計画に基づき実施してきたが、6路線中3路線は想定していない岩質が現れたことで作業効率の著しい低下や林道に繋がる市道等の災害の影響により、事業の進捗を伸ばすことができなかった。ただし、残りの3路線については、整備が完了し一応の評価を得ることができた。						
その他の事業	林業作業道総合整備事業		間伐等の森林整備を進めるため、林道と併せ、作業道から業脈路、架線作業道までのきめ細やかな路網の整備に補助し、作業の効率化と林業の活性化を図る。			計画期間中に地域内作業道整備として、367路線に対し補助を行った。このことにより計画期間内の木材の搬出作業をより効果的に実施することができ、素材生産量の増加に繋がった。						
	計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	関係行政機関等から意見を求め、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
⑤事後評価の公表方法	群馬県のホームページに掲載。											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道と林道の一体的な整備を実施した結果、市道整備では周辺地域の交通の利便性や通行時の安全性が向上したことで観光客数が増加し、林道整備では森林へのアクセスが改善され素材生産量の増加に繋がった。 なお、本計画で達成に至らなかった指標2「森林整備面積の増加」については、地域内の路網整備が充実したことにより、従来であれば切り捨て間伐を計画していたところを、集約化後に搬出間伐で計画するようになり、搬出間伐は切り捨て間伐より労力と作業時間を大幅に費やすので、森林整備面積が減少する結果となったと考える。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画の今後の方針として、東毛地域において、継続して次期計画を実施させることから、引き続き観光客数の増加及び森林整備面積の増加を図るため、地域内における渋滞緩和等、交通の利便性・安全性を向上させる市道整備（拡幅等）や木材の伐採・搬出作業をより効率的に実施する林道整備を行うことで、目標数値を達成させるための積極的な整備を実施する必要がある。また、道路整備を進めていく上で、観光ニーズの多様化や林業振興スタイルの変化など地域の実情に合った最も効率的な方針を選択し、総合的な整備を実施することも考えていく必要がある。 なお、本計画で道路整備が進まなかった路線については、今後も単独事業等で対応することで、周辺施設や森林へのアクセスを改善していく考えである。											

\* 各指標の事後評価欄は、次の基準で評価する（達成率100%以上…◎、達成率80%以上100%未満…○、達成率80%未満…△）